

会議の概要（議事録）

会議の名称	(番号) 1-38	令和6年度第5回 墨田区図書館運営協議会		
開催日時	令和6年9月21日（土） 午前10時から12時まで			
開催場所	墨田区立ひきふね図書館5階会議室			
出席者数	<p>【委員】11名 日向 良和（会長）、今井 福司（副会長）、松塚 智加子、駒田 るみ子 金 豊子、矢島 真理子、齊藤 宮子、正岡 恵子、津村 しづ恵、 森 恵子、口中 常嘉、</p> <p>【事務局】 ひきふね図書館長、ひきふね図書館次長、ひきふね図書館主査、 ひきふね図書館担当職員2名</p>			
会議の公開 （傍聴）	公開(傍聴できる)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	0人
	非公開(傍聴できない)			
議 事	議事第1 墨田区こども読書活動推進計画（第5次）の策定について 議事第2 その他			
配 付 資 料	次第 資料1 子ども読書活動推進計画施策 素案			
会 議 概 要	墨田区こども読書活動推進計画（第5次）の策定について ・計画素案について			
所 管 課	ひきふね図書館（電話：5655-2350）			

■議事第1 墨田区子ども読書活動推進計画（第5次）の策定について

日向会長

本日は計画について、大筋の議論を行いたい。素案について、これまでの議論と合致しているかを主に見ていただきたい。細かな文言等については後ほど事務局に意見を個別に送ってほしい。

事務局

資料について説明

日向会長

1章ずつ確認していきたい。まずは第1章からであるが、ここは国、都の状況や計画の担い手について記述されている。p.3には図も掲載されているが、まずはこの図等について、何か意見をいただきたい。

齊藤委員

「区民」という表現だけでは曖昧すぎる。これでは、自分事として捉えないのでは。「地域住民」や「商店街」など具体的な表現が良い。

津村委員

「子どもの周りにいる大人全員」などの表現でも良いのでは。

矢島委員

あまり多くを盛り込むと分かりにくくなる恐れはあるが、「ボランティア」や「児童館」など、具体的に入れたほうが分かりやすい。

日向会長

「学童クラブ」なども含めて、どこに位置づけられるかがわかりにくい。

矢島委員

ボランティアで頑張っている人もいる。これを見て、自分たちはどこに位置付けられているか、わかりやすいほうが良い。

日向会長

「地域」や「関係団体」なども位置づけがほしい。区外の事業者もあるので「事業者」も「区民」には当てはまらない場合がある。地域全体で取り組むことがわかるようにしないといけない。「子育て関連施設」だけではなく、「読書に関連する団体」などと表現する方法もある。「区民」だけでは、かえって位置づけが狭い場合もある。

つぎに、p.6からの第4次計画の実績についてご意見を頂きたい。この実績は図書館が指定管理者と連携して行ってきたものが書いてあると思われる。事業者と連携して取り組んでいるので、「事業者や諸団体と連携して継続的に取り組んできました」など、区以外のメンバーも含めて推進してきたことが文言の中にあると良いのではないかと。第5次計画も連携して取り組んでいくということにもつながる。

今でなくても良いので、実績で入れてほしいことや漏れていることがあれば、後日で結構なので事務局まで伝えてほしい。

日向会長

次に、第4次計画で掲げた目標値の達成について、ご意見を頂きたい。ただし、数字は

動かさないので、結果を評価する文言について意見を頂きたい。ちなみに、不読率では本に触れた子どもが把握できないことや、バリアフリーの考え方などもここで示されている。

津村委員

学校では朝読もやっており、子どもたちは結構本を読んでいるし手にも取っている。しかし、1冊読み切っていないので、「不読率」という数字には反映されていないことがわかる。図鑑等も含めて、子どもは手には取っている。第5次計画では、違う目標を乗せたほうが良い。

日向会長

津村委員の言うとおおり、「手に取った」というカウントも大事である。

事務局

p. 58 にアンケートの結果を掲載しているが、本に触れた子は多い。また、質問の仕方によっても結果は変わってしまう。このアンケート結果も踏まえて考えていきたい。

津村委員

不読率の調査では、いい加減に答えてしまっている子どももいると思われる。

日向会長

ただし、全国との比較も重要であるので、これまでの不読率の数字の取り方も必要ではある。

駒田委員

いま学校に調査が来ているが、本校はテスト前なので、子どもは本に向き合う時間を取れない。この期間に「この1か月で読み切った本の数」となると、回答は夏休み期間も含んだ読書活動の結果になるため、本が好きでない子どもにとっては厳しい回答にならざるを得ない。このように時期によっても回答は変わってくると思われる。2学期制と3学期制の違いでも結果は変わってくると思われる。

日向会長

墨田区でもアンケートを取る時期を考えたほうが良い。4、5月は学校に慣れていない、夏は休みや運動会と、アンケートを取るのにあまりよくない時期である。学校図書館協議会が実施する読書活動の調査に合わせても良いかもしれない。

日向会長

p. 14 からは国や都における調査結果についての記述になる。この学校図書館協議会の調査のグラフは有名で良く使われている。ただ、学校図書館協議会の調査の条件は大変厳しいものであり、調査には漫画や電子書籍は入っていないので比較には注意が必要である。校種があがるにつれて、読む冊数が減るのは致し方がない。高校生に上がると読まないのも勉強等があるからであり、1年に1冊ぐらい読むだけで、十分良いほうではないかという声もある。

p. 17 からは墨田区のアンケート結果と、これら踏まえた墨田区の分析が掲載されている。この分析に対して意見を頂きたい。

日向会長

p. 18 にある「紙の書籍の良さを知り」という文言については、合っても良いが、特にあ

えて書かなくてもよいのではないかと思う。世の流れ的にも電子書籍の割合が増えてきている現状もある。

口中委員

文中に「漫画図書館」の文言があるが、この漫画図書館について、何か区のほうで動きがあるか。

事務局

「漫画図書館」は区長のタウンミーティングで子どもから出た意見である。ただし、図書館は漫画を収集していないので児童館と連携して取組を進めていきたい。一方、映画の原作や地域ゆかりの漫画などは、図書館に置いても良いのではと考えており、漫画所蔵に関する考え方についても間口を広めていくつもりである。

日向会長

次に p. 19 からの第 5 次計画に向けた課題について意見を頂きたい。ここには第 4 次の反省が記述されている。都は不読率を課題にしているが、墨田区では「本に触れていない子どもの割合」を減らすことを課題と捉えている。今までの事務局の説明や議論を踏まえても、このことは妥当と考えるがいかがか。

p. 20 の 7 行目に乳幼児についての読書の課題が記述されている。この文言だと、子どもの読書活動を家庭にだけ限定しているように見えてしまう。ここは、「家庭・地域」としたほうが良いのではないか。あまり家庭に限定し過ぎると、家庭にプレッシャーがかかる恐れがある。

今後でも良いので、文言等に意見があれば事務局までお願いしたい。

次に第 3 章、計画の基本方針について意見を頂きたい。P. 21 以降は皆さんとこれまで議論してきた結果でもあるが、いかがか。

せっかく議論をして、基本目標は子どもが主語で記述されているので、そうなった理由を書いたほうが良い。子どもへの呼びかけという事務局の考えを示すべきである。

p. 22 からは基本目標達成に向けたポイントとして、年齢ごとの方向性についての記述があり、その中で、p. 24 に「配慮を要する子どもへの事業は各年齢に含める」との記述がある。特に配慮を要する子どもへの事業は、これまでも議論してきたので、(4)として「特に配慮を要する子ども」の項目を入れるべきである。このままだと、計画を見た人が、特に配慮を要する子どもへの支援については落ちていると感じてしまう。

矢島委員

図書館に対してはインクルーシブを取り入れてほしいという声もあるが、図書館はもともインクルーシブの考え方である。図書館にとっては当たり前の事であるかもしれないが、きちんと説明文を入れたほうが理解していただけると思う。

事務局

(4)として「特に配慮を要する子ども」の項目を追加させていただく。

駒田委員

p. 23 に「身近に本の情報を提供しあえる人がある」という文言があるが、これに違和感を覚える。

今井副会長

「提供」ではなく、子ども同士で本の情報やり取りができるという感じが伝わると良いのではないか。

日向会長

「身近に」という文言も重なっている。ここは「伝え合う」という文言でよいのではないか。

今井副会長

中高生のポイントにおける基本目標2の太字と鉤括弧の使い方をもう少し工夫したほうが良いのでは。他のポイントではすべて鉤括弧の呼びかけが文頭に来ているので、ここだけバランスが悪いように感じる。

日向会長

同じく基本目標3の「本をかかわれる」という言葉が文法的におかしい。

また、葛藤について触れられている文言について、「悩みや葛藤」という文言のほうがふさわしい。同じく「本の魅力や意義を見出し」の後に続く文言としても、「悩みや葛藤を乗り越え」という一文が欲しい。悩みは解消されなくても、本を読むことで安心するというニュアンスを付け足してほしい。本の魅力はおもしろいだけではなく、悩みに寄り添うという魅力もある。

松塚委員

p. 14に「保護者や先生」という文言があり、ここ以外にもp. 19の6行目など、この計画では「先生」という単語が用いられている。ただし、「先生」という言葉は様々な意味を持つ。医者や塾の講師も「先生」である。「教員」や「学校の先生」としたほうが、意味がはっきりするのではないか。

日向会長

塾の講師が計画における「先生」の中に入っていると思うが、事務局で言葉の使い分けを考えてほしい。

今井副会長

計画において「本」という文言が多く使われているが、この「本」とは何を指すのかが示されていない。この第3章で、墨田区における「本」の定義を入れたほうが良い。

矢島委員

学習漫画は内容も高度で漫画として一律にくくることは難しい。本の形態が多様化しており、読みやすくするために絵の多い本もある。子どもに本を紹介するときに悩むことが多い。

日向会長

p. 21の最初に墨田区の考える読書について、子どもには本とともに豊かになってほしい、「本」とはこういうことを考えているという文言があれば良いのでは。この運営協議会での議論でも「本」は幅広く捉えている。

齊藤委員

特別に配慮を要するという考え方からすると、文字では理解できなくても絵や漫画では

理解できる人もいる。「本」の定義を幅広く捉えないと、そういった方々を排除することにもつながるのではないか。また、「利用者に障害がある」という考えではなく「図書館に障害がある」から利用できていない。だからこそ、その図書館に存在する障害を取り除くのであるという考え方をこの計画では示してほしい。その中で、配慮を要する人でも親しめる本という考え方をすれば漫画も含まれてくるのではないか。

今井副会長

「本」は紙でなくても良い。映像もある。「図書館で扱う資料すべて」を本として捉えているという考え方もよいのではないか。「図書館が扱う情報メディア」としても良い。5年先にはまだ様々なメディアも出てくると思われるのであまり限定的に書かないほうが良い。

日向会長

耳で聞くオーディオブックも読みやすいとも聞く。「墨田区では本を広くとらえています」という宣言があると良い。紙に活字で書かれているものだけが本ではない。本の間口が広がれば、関わることのできるボランティアも増えてくる。

正岡委員

p. 24 の中高生のポイントにおいて「生きる力」、「道しるべ」という前向きで元気が出る言葉もあるが、「悩みに寄り添う」という言葉も欲しい。基本目標3の「能動的に社会に関わっている」という言葉では子どもはぴんと来ないのでは。

日向会長

基本目標3は区の姿勢としても重要であるので、趣旨を変えるのは難しい。ただし、「能動的」ではなく「積極的に」などと言葉を考えても良いかもしれない。

矢島委員

本を通して積極的に社会に係わるということ、中高生ならできるかもしれないが、読書ボランティアぐらいしかイメージができない。具体的なイメージが伝わる文言が良い。

日向会長

子どもが「読書活動」に能動的に関わるのではなく、本をきっかけに社会に関わることができる、社会参加の意欲をもつ、社会に対して興味関心が持てるという意味である。文章もそのような表現でも良いかもしれない。

金委員

本に関われるについて、「を」を「と」にでもよいかもしれない。

日向会長

そもそも「本をかかわれる」という日本語がおかしいので、文言は事務局にお任せするが、今日出た意見を踏まえて修正をした方が良い。

駒田委員

「大事にしたい子どもの姿」という言葉があるので、太字の文章には「～な子ども」という単語があれば良いのではないか。

日向会長

「ずっとそばにおきたい本を持っている子ども」というような表現でもよいかもしれな

い。

松塚委員

基本方針・基本目標自体の説明や定義づけについての記述がない。そもそもこの基本目標の説明がないと、何を指すのかがわからないのではないか。

日向会長

「基本目標1ではこういうことを目指しています」ということを書き加えたほうがよいと思う。基本方針にも主体性や豊かな人生の意味や、悩みや葛藤に寄り添う本についての説明、さらには本の知識を通して豊かな人間関係を築けているといった説明があっても良い。

日向会長

次に p. 25 の指標について意見を頂きたい。私個人としては、読書に指標はあまり意味がないと思っているが、行政計画には数値目標を入れざるを得ない。5年後にこういった状態になってほしいという意味での指標であるのでご確認いただきたい。全体目標は「本に触れた率」をとるということは大変素晴らしい。ただし、「本」としてカウントするのであれば、「本」の定義は明確にしたほうが良い。できれば、図鑑や辞典を開くだけでもカウントするほうが良い。目標値もこれくらいが妥当である。100%はありえないので「95%以上」が限界である。また、何を以て指標とするかは、各基本目標の具体的な将来像をはっきり説明したうえで、それをどうやって数値化していくかを考えることで指標が設定できる。ちなみに、基本目標2「読みたい本がない」という指標は基本目標1ではないかと思う。また、基本目標3「保育園保護者の割合」という言葉が不自然であり、基本目標3としてはいかがか。いずれにせよ、基本目標2、3を測る指標は難しい。本が増えたかどうかという「状況」が判断できる指標が良い。基本目標3は例えばSDGsなどに関する本が増えたか減ったかなどで測るのも一つである。基本目標2では児童館等施設で団体貸出を示す数値なども指標となりうる。指標については、再度見直していただき、後ほど指標と目標像の文章をメールで送って、皆さんで確認したいと思う。

次に p. 27 施設や団体についての意見を頂きたい。P. 28 に「学校司書との連携」という言葉があるが、連携について述べるのであれば、学校司書よりもむしろ外部のボランティアや、諸団体、地域団体等との連携を入れるべきではないか。

駒田委員

質問がある。私はこだわって「読書指導」という言葉を使っている。学校図書館としては、やはり「読書活動」に留まるのか。計画における学校図書館の役割に、大人からの読書活動の推進だけではなく、一歩進んで、義務教育課程における「読書指導」を位置付けることは難しいのか。図書館としての考え方では「指導」という言葉は良くないのか。

日向会長

公共図書館では指導ではなく自主性となるが、学校図書館では「指導」は行う。ただし、あくまでもこの計画では読書活動推進なので指導が入っていない。これが、図書館ではなく、学校の計画なら「指導」という言葉が入ることになる。

p. 31 に家庭の役割が記述されている。ここは家庭に限定するのではなく、地域や事業

所が入っても良いのではないかと。事業所が入らない場合は「家庭と地域」としたほうが良い。地域との連携については、説明の文章中にも入れてほしい。また、(4) 子育て関連施設についてであるが、本来は子育て関連施設も「地域」として位置づけられるものである。ただし、墨田区は子育てに力を入れているということで、あえて特出ししたいというのであれば理解できる。

次に p. 32 内部体制の充実についてご意見を頂きたい。今後も指定管理事業者と連携していくと思われるので、ここでも「事業者と連携して」という言葉が欲しい。また、職員の専門性の向上に触れられているが、専門性と共に人員の充足も重要である。計画に学校司書の配置充実等の記載があっても良い。ただ、記載する場所は内部体制の充実ではないかもしれないが。

駒田委員

本校は司書教諭の位置づけとして3名いる。司書教諭の活動時間として、1人あたり2時間分の時間を都からいただいている。これが増えるとよりよい読書活動の推進ができる。

日向会長

教員も含めて区の職員の充実が必要である。この点を計画に盛り込めることができれば良い。

次に p. 34 リーディングプロジェクトについて意見を頂きたい。リードには「LEAD」と「READ」両方の意味がある。読書活動の計画なので後者かと思ったが、両方の意味をかけたもよいと思う。それぞれのプロジェクトに基本目標との関りを示しても良いのではないかと。例えばプロジェクト2は基本目標3を推進するためといったように。

次に p. 35 以降の施策体系と事業概要についてであるが、ここについてはこれまで議論を重ねてきているので、抜けがないかどうかの確認をしていただき、もし漏れている事業等があれば事務局までお知らせいただきたい。

ここまでの、本日皆さんと議論したかったところとなる。この後は資料編となるが、計画に関連する法令や各種データが記載されている。これは、事務局の説明にもあったが、今後最新のものに差し替えられるとのことなので、後日確認をお願いする。

事務局

追加で説明をさせていただく。全75事業中、新規6事業・拡充24事業あるので、この数字も掲載していきたい。特別な配慮を要する子どもへの事業についても、多くの事業に紛れて見えづらくなっているため、事業番号に「特」を振って、わかりやすくしようと考えている。

■議事第2 その他

日向会長

今後についてであるが、全員で共有したい意見については議論できたと思っているが改めて気づいた点については、事務局まで1週間を目途に事務局まで寄せていただきたい。また、本日の議論にあがった p. 21 の補足説明と、それを踏まえた指標についても、改めて各委員に示していただき、再度意見を求めている。個人的には再度開会しても良いのではないかとと思うが事務局で検討して連絡してほしい。

他になければこれで第5回運営協議会を終了する。